



If-2の世界

Look Beyond Your Mind

永田円了

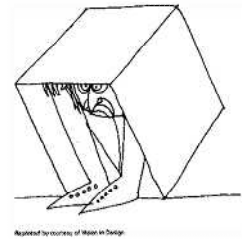
今回のテーマは仮定法である。仮定法に関しては英語という言葉は実に豊富である。物事を現実を超えた発想で捉えるコトバの言い回しが英語には多く備わっている。

例えば、もし僕が鳥なら、君の元へ飛んでいけるのに (If I were a bird, I could fly to you.) など。悲しいかな、日本語にはこの種の言い回しは乏しい。今回は、If の世界を二つに分け、現実に起こりえることを予測する "If" を "If-1"、現実にはあり得ないことを予測する "If" を "If-2" として、この "If-2の世界" のパワーを、数々の事例を元に検証する。

マインドの牢獄

17世紀の哲学者デカルトは、「我思う故に我あり」(I think, therefore I am) と言った。頭(マインド)で考える自分が自分であると言ったのである。本当にそうであろうか。自分には自分でも計り知れない力があるのではないか。

デカルト的思考の落とし穴は、全てのものにレッテルを貼り、頭で分かったように思い込んでいたことにあった。アメリカ映画「マトリックス」の中では、このことを「真実を隠すために目の前におろされた『マインドの牢獄』」と呼んだ。



思考の枠を超える

ブルース・リーは技を極める中、「心を空っぽにするんだ (Empty your mind.) 型を捨て、水になるんだ (Be formless, shapeless like water) と言った。

小澤征爾は、宮本文昭氏に指揮を教える中、「宮本さん、あんた、そういう風に振られたら窮屈に感じないかい」「指揮者の手がストライクゾーンのワクを超えた時、自由にのびのびと演奏できるんじゃないかい」と言った。日本昔話の一つ「みょうがの宿」では、欲深い宿の夫婦の思考を超えた結末を迎える。

イクメンが社会を変える

男性の育児休業取得率はいまだに 1.7%にとどまっている。有給なれど、40%の減給が痛い、出世にひびく、などと誰も取らない。企業も推進しようとはしない。現実思考のワク内で考えると、今の現状が容易に見て取れる。いや、その逆はあり得ないと思っている。

この現状を、「If-2」の発想で行動したらどうなるか。自分が変わり、家庭が変わり、会社が変わり、社会が変わる。何よりも、次世代を担う子供達が変わる。今ありえない、と思っていることを、取ってやってみる。やれば確実に社会は変わる。これは、育児休業ではなく、男の「育児修行」なのである。



< 事例 >

Sebu 航空の Flight Attendant によるダンス
 ING DIRECT ネット銀行のバス広告
 米国映画「マトリックス」より、マインドの奴隷
 日本映画「ハイキックガール」より、気付いたら相手が倒れている
 Bruce Lee のインタビュー / 心を空っぽに
 小澤征爾 & 宮本文昭 / 指揮は、ストライクゾーンから外れる
 日本映画「雨あがる」より、何も考えない剣
 日本昔話「みょうがの宿」 / マインドの枠を超えた展開
 クローズアップ現代より、イクメンが社会を変える
 コロケ 20周年記念コンサート / 人の元型を演じる



円了のホームページ: www.enryo.jp